

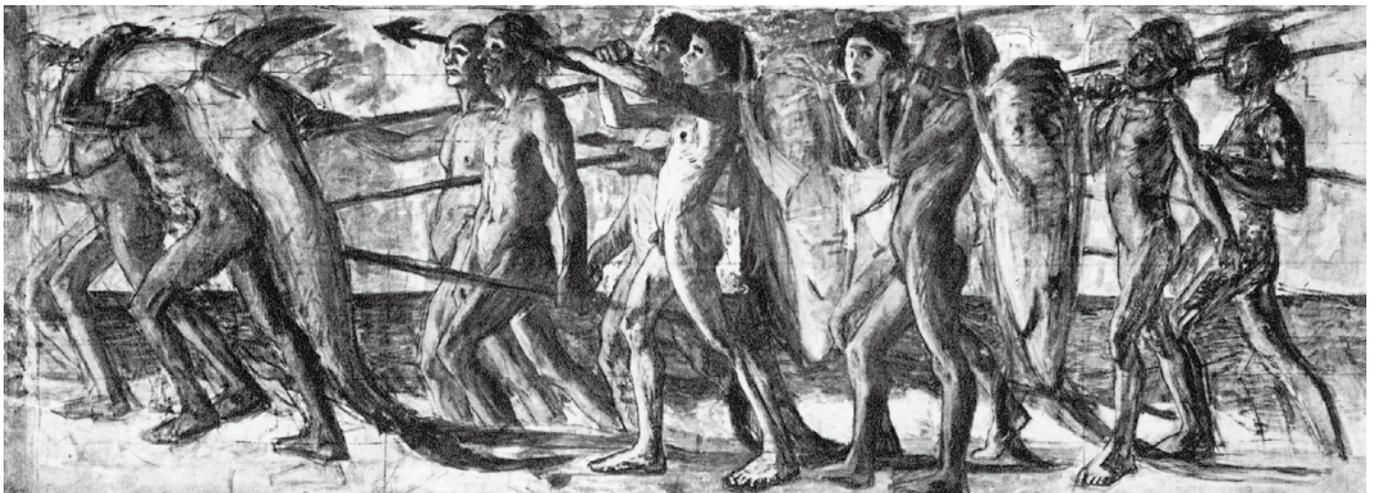
# かしょう 仮象の創造 そうぞう

## 〔増補版〕

青木 繁全文集

■体裁：A5判カバー装 本文308頁 口絵20頁 ■定価：本体4,600円＋税  
ISBN4-8055-0444-7 C3071

明治末期の洋画壇にあたかも彗星のように登場し、「海の幸」「わだつみのいろこの宮」などの浪漫的作品を残して「蠱惑的画家」の名をほしいままにした青木繁は、明治四十四年の春、二十八歳で放浪と貧寒のうちに夭折した。自分自身ですらどうすることもできない豊富な創造力と、内面からあふれる詩情を抱いて、不本意な環境と現実の巷を彷徨した彼の作品は、見る者を美の彼岸の世界へ導く。彼の生涯が未完成であったように、彼の芸術作品の多くもまた未完である。しかしその作品はみじんの破綻もなく、すぐれた詩情をもつ。彼の詩歌、随想、画論、書簡を収載した全文集であり、資料写真を多数配し、河北倫明氏による解説、年譜を付した。新発見の資料及び同時代の青木の知友たちによる回想を増補した決定版。



海の幸 石橋美術館蔵

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7読売中公ビル内  
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取扱いは

日本近代絵画史に不滅の名作を生んだ青木繁の遺した画論、随想、書簡、日記を収めた全文集である。一芸術家青木繁の芸術の深さと人間像を理解するための道標として貴重な文献であるとともに、美術史、文化史の重要な資料である。

## 目次

### 〔画論〕

画談

滄海の鱗の宮

美術断片「わたつみの魚鱗宮」に就て

齊東風語

藝術の成立と裸体製作

美術家の眼に映じたる青葉の佐賀

構図の一分時

断片

明治四十三年  
明治四十四年

自伝草稿

青木繁年譜

解説

河北 倫明

### 〔短歌〕

うたかた

村雨集

雑詠

### 〔書簡〕

明治三十五年

明治三十六年

明治三十七年

明治三十八年

明治四十年

明治四十一年

明治四十二年

### 〔自筆増補・追想記〕

青木画伯の断片

美術閑話

グアツシュの話(西洋画初学者の為に)

書簡 五篇

追想記(その一)

追想記(その二)

追想記(その三)

追想記(その四)

二つの特色

海の幸(青木繁氏遺作画集の後へに書す)

青木君に関する追想

蠱惑的画家(伝説と印象)

噫青木繁君

「仮家の創造」増補版のためのあとがき

坂本繁次郎

森田 恒友

高村 真夫

正宗得三郎

有島壬生馬

木下李太郎

岩野 泡鳴

蒲原 隼雄

梅野 満雄

田中 淳

### 「増補版のためのあとがき」より

青木繁という画家が、今日的な意味で、これほどまでに評価されてきたのは、じつはこの評伝(河北倫明『青木繁 生涯と芸術』)から始まったといえる。したがって、この画家を、世に出したのは、間違いなく一人の研究 者、美術評論家として知られた河北倫明である。同氏による青木繁研究は、幾多の論文、解説のほか、青 木の著述による画論、短歌、書簡などを集めた文集である『假象の創造』の刊行にも結実したのである。中 略)しかしながら、本書は、新装版として、昭和五十八年に刊行されて以来、ながらくの絶版の状態であつ た。また、展覧会でも、「青木繁 明治浪漫主義とイギリス」展(ブリヂストン美術館・石橋美術館、昭和五十八 年)以来、本格的に回顧はされていなかった。その間、わずかではあるが、研究者たちによって、青木の著述 などが新資料として発見されてきた。中略)本書も、河北氏の編まれた内容を尊重しつつ、新出の資料を加 え、増補版として刊行することになったのである。

## 中央公論美術出版 関連既刊書

### 松岡壽研究

青木 茂・歌田真介 編

A5判上製函入 本文480頁

定価(本体12,000円+税)

明治初期洋画家として近代日本美術史上に位置付けられてきた松岡壽は、美術教育者として、中でも図案・デザイン教育の先駆者として今日新たな位置付けがなされている。本書は、松岡所蔵の美術資料や著作物、イタリア留学時代を含む日記類、気鋭の研究者による論文から松岡の足跡を検証する。

### 木村莊八日記〔明治篇〕

東京文化財研究所・小杉放庵美術館編

A5判上製函入 本文480頁

定価(本体12,000円+税)

木村莊八は岸田劉生らとヒュウザン会、草土社、春陽会と活動を共にし、大正、昭和期の画壇に大きな足跡を遺した。彼の遺した詳細な日記のうち、多感な青年期の日記(明治44年から大正2年)を、詳細な註を付し、研究論文8編によって多角的に論じた資料研究を公刊する。